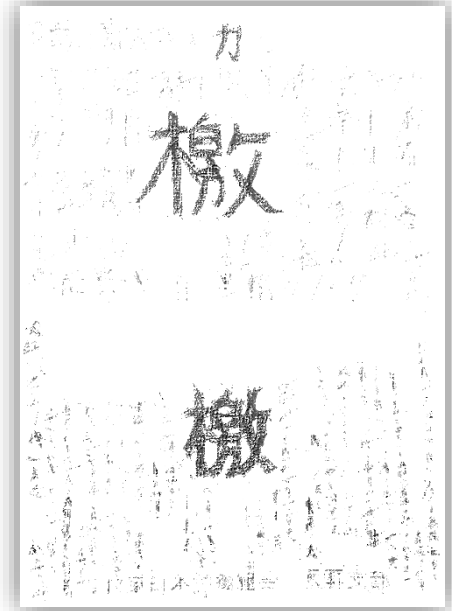


■長野地方本部 長野支部座談会

長野支部は11月9日に「座談会」を開催し、年末手当要求を満額勝ちとるために各職場から「声」を上げ続けることを参加者と意思統一しました。

【年末手当に対する組合員の声】

- ・職場の若手は「3ヶ月も出るわけがない」と言っていたが、要求3.0ヶ月は低いと思う。
- ・地方は基本給が低い。ボーナスで賄っている。
- ・ボーナスに関心がない人が多い。
- ・職場では緊張感を感じない。
- ・喫煙所では本音も聞こえる。
- ・現実をみると3.0ヶ月の要求が妥当。
- ・要求は多い方が良いと思う。
- ・コロナ禍といっても、業務量は減ってない。
- ・ボーナスが低いと良い人材が集まらない。
- ・ローンもあるので家族が心配している。
- ・住宅ローンの支払いがある。
- ・ほとんどの人は、ボーナスが出ればよいと思っている。
- ・職場の雰囲気としてボーナスの話題が出ない。興味がないのか？
- ・若手は、あきらめムードがある。
- ・こういう時こそ、会社が社員を大切にしているのか判る。
- ・JR西日本と比較するとJR東日本は、全て発表が遅い。夏の時点で様々な事が見通せただけ。異動もボーナスも発表が遅い！生活設計ができない！
- ・施設関係では、ほとんどの社員が組合に入っていない。JR西日本1.5ヶ月。「私たちも同じか」と「あきらめムード」もある。報道でも悲惨な状況が伝えられている。しかし、住宅ローンを考えたときに、どうするのか？不安だらけ！
- ・生活設計上、早めに回答があれば良い。貯蓄を切り崩す準備がある。
- ・「GO TO キャンペーン」は税金で賄っている。収入が下がっても税金は一緒。
- ・長年の経営体力は、社員がつくってきた！
- ・無所属の人がボーナスを心配しているが、組合に入って一緒に考えるべきだ。



あきらめるのではなく、一緒に声を上げよう！！

これまでも、これからも会社を支えるのは、私たちJR労働者だ！